

GPS 安全性要約書

カルコール 2475

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の用途・用法、安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全データシート (Safety Data Sheet)に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名: カルコール 2475

化学名: Alcohols, C12-16

CAS 番号: 68855-56-1

2. 使用・用途と適用

カルコール 2475 は長鎖脂肪族アルコールで、産業分野において化学合成のための中間物質として使用されています。カルコール 2475 の使用は産業分野に限定されており、一般消費者向けには販売されていません。

3. 物理化学的特性

カルコール 2475 に物理化学的危険性は認められません。

特性	値・性状
物理的状態	固体 (夏期液体)
色	白色
臭い	わずかな (若干) 特異臭
pH	測定不可
密度	0.82g/mL (40°C)
融点	22°C
沸点	>40°C

引火点	140°C (クリーブランド開放式測定器)
可燃性	情報なし
爆発性	情報なし
自然発火温度	情報なし
蒸気圧	情報なし
水への溶解性	不溶
オクタノール／水分配係数(Log K _{ow})	情報なし
粘度 (粘性率)	情報なし

4. ヒト健康影響

消費者：カルコール 2475は産業分野での使用に限定されるため、消費者への曝露はありません。

作業者：カルコール 2475は眼に対する強い刺激性があります。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/吸入/経皮	実際に、経口/吸入/経皮曝露後の毒性はありません。単回曝露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	眼に対する強い刺激性があります。
感作性	感作性はありません。
繰り返し曝露による毒性	実際に、経口/吸入/経皮曝露後の毒性はありません。繰り返し曝露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
遺伝毒性	変異原性はありません。
発がん性	反復曝露の試験結果から、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

入手可能なデータでは、カルコール 2475は、水生生物に対し試験条件下で毒性を示します。しかしながら、公共の排水処理施設や広域環境中での微生物による分解は、大変早くまた効果が高いことが知られており、水環境への放出量は少ないと考えられます。なお、C12～C16 脂肪族アルコールは環境中で天然に存在することも知られています。

アセスメント項目	結果
水生毒性	水生生物に対し試験条件下で毒性を示します。
生分解性	容易に生分解されます。
生物濃縮性	生物濃縮性はありません。
PBT / vPvB	PBT/vPvBには該当しません。

6.曝露

消費者

カルコール 2475は産業分野での使用に限定されるため、消費者への曝露はありません。

作業者

カルコール 2475の生産設備や多くの取り扱い設備では、この物質による曝露が発生します。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストや他の作業においても曝露される場合があります。教育を受け訓練された作業者のみが、（希釈されていない）この物質を取扱います。各製造設備では、不必要的曝露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の常備と共に、作業者向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。安全シャワーや眼を洗う設備が設置されています。作業者はSafety Data Sheetに記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

環境

カルコール 2475は製造・準備・取扱い・貯蔵・配合など工業的に取り扱う場所から排水処理施設へ排出されます。しかしながら、この物質は容易に生分解されるため、排水処理施設において効率的に取り除かれます。排水中にわずかに残った場合でも、表層水中で生分解を受け、迅速に取り除かれます。従って、長期に渡る水生生物への曝露は起こり得ないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖による濃縮はなく、環境経由のヒトへの曝露も懸念されません。

7.推奨リスク管理措置

推奨リスク管理措置の詳細については、Safety Data Sheet を参照して下さい。

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手や皮膚の保護のために耐化学薬品手袋を常に着用し、ケミカルゴーグルのような眼の保護具を装着して下さい。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。化学物質に接触した後は、手や皮膚を洗って下さい。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けて下さい。

この物質を含む排水は、最終的に河川等に排出される前に、この物質を除去するため、排水処理設備を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8.法規制情報/分類・ラベル情報

GHSに基づき、この物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険有害性に従って分類されています。この危険有害性の情報は特定のラベルと Safety Data Sheet によって伝達されています。GHSでは化学物質の曝露が想定される対象者（作業者、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解できるように努めています。

分類・ラベル情報

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分2A	H319：強い眼刺激
水生環境有害性（急性）：区分1	H400：水生生物に強い毒性
水生環境有害性（慢性）：区分1	H410：長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性



注意喚起語：警告

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関する法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供されるSafety Data Sheetを参照して下さい。

9. 結論

カルコール 2475 は環境における高濃度曝露が生じた場合水生生物への影響がありますが、容易に分解され、環境中には残留しないことから、環境へのリスクは無視できると考えられます。PBT/vPvB の評価結果から、この物質は PBT/vPvB には該当していません。この物質そのものを取り扱う作業者は、標準的な安全管理手法に従い、Safety Data Sheet を参照する必要があります。カルコール 2475 は産業分野での使用に限定されるため、消費者への曝露はありません

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署	花王株式会社、ケミカル事業部門
電話番号	03-5630-7601
ファックス番号	03-5630-7964
電子メール	chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては、一般社団法人日本化学工業協会が提供する「化学物質リスク評価支援ポータルサイト」をご覧下さい。

(<https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top>)

11. 用語集

急性毒性	単回曝露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
遺伝毒性	遺伝子・染色体に変異をもたらす影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生殖発生毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
PBT (Persistent, Bioaccumulative and Toxic)	残留性・蓄積性・毒性を有する物質
vPvB (Very Persistent and Very Bioaccumulative)	高残留性・高蓄積性を有する物質
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和

12. 発行日

2024年7月11日 改訂